

【宜野湾市】
校務 DX 計画

本市では統合型校務支援システム（平成 21 年）、デジタルドリル（令和 2 年）、保護者連絡ツール（令和 4 年）、教職員グループウェア（令和 5 年）を導入して教職員の業務効率化を推進してきた。

「GIGA スクール構想の下での校務 DX 化チェックリスト」においては、「市区町村ごとの校務 DX の取組状況（デジタル庁：2024 年 11 月時点の数値）」で「教職員と保護者間の連絡のデジタル化」、「学校内の連絡のデジタル化」の項目において、完全にデジタル化の割合が 60%を超えており、着実な改善が見られる。

一方、「教職員と児童生徒間の連絡等のデジタル化」、「その他(FAX の原則廃止、押印の原則廃止)」については、0%～38%にとどまっており課題が見られる。

これらの結果を踏まえつつ、課題解決に向けて次の通り取り組む。

1. 「教職員と保護者間の連絡のデジタル化」、「学校内の連絡のデジタル化」については、既存の取り組み（保護者連絡ツール、教職員グループウェアの活用）をさらに徹底する。
2. 「教職員と児童生徒間の連絡等のデジタル化」については、学習 e ポータルの連絡機能を活用した具体的な取り組み方法や参考事例を共有・展開することで向上を図る。
3. 「その他(FAX の原則廃止、押印の原則廃止)」については、学校現場において FAX や押印が必要となる場面や状況の現状分析と課題の洗い出しを行い、改善を進める
4. 統合型校務支援システムを引き続き活用しつつ、県域で統一を検討している次期校務支援システムの動向を確認し、適切なタイミングで移行を行う。